

2014年度の発掘調査成果

今年は2箇所の遺跡の発掘調査を実施しました。1つは、平成24年度から継続して調査を実施している川上地区羅萌の川上1遺跡です。町道改良工事のための緊急発掘調査(約1,300 m²)を5月下旬から8月下旬まで実施し、縄文中期(今から約4,000年前)の竪穴住居跡などを発見しました。この遺跡は清里町との町境にある斜里川の右岸段丘面に位置しており、周辺にも同じ時期の遺跡が見つかっています。

今年は調査の最終年となり、過去3カ年で発見された遺構(人が何らかの目的を持ち構築したもの)の数は竪穴住居跡8棟、土坑40基、焼土や木炭範囲50箇所などでした。遺構のほぼ全てが縄文中期のもので考えられ、住居数こそ少ないものの、焼土跡が多く見られることから人々が生活していた集落跡と考えるとよいでしょう。

調査を終え、一つ解決できていないことがあります。住居は一般的に人が住むところを示し、外敵や雨風、天災などから身を守るための建造物と考えられています。そのためには定型的な形に掘り込まれ屋根の支え柱を有するはずなのですが、発掘された住居のほとんどが定型的ではなく、柱穴も無かったりします。一時的な仮住まいの家ならば、大がかりなこしらえをしなくても良いのですが。実は、当遺跡だけではなく斜里町内で見ついている縄文中期の住居の多くがこのような実態なのです。残念ながら今回も仮住まいの家なのかどうか、謎を解く鍵は見つかりませんでした。

もう一つは、ほぼ9月1ヶ月間をかけウト口西のチャシコツ崎(通称:カメ岩)の頂上で学術調査を実施したチャシコツ岬上遺跡です。この頂上部には31棟のオホーツク文化期(今から約1,000年前)の住居跡が残されています。三方を海に囲まれ、あながち海に突き出た要塞集落とでも言えるでしょうか。

今年は崖の側で崩落している竪穴住居1棟と2×6.5 m程のトレンチ1列を発掘しました。トレンチからはオホーツク文化期の土坑墓1基と土坑1基、焼土遺構が見つかりました。土坑墓の副葬品には被瓶(かぶせがめ)土器や石鏃の他、人歯が出土しました。当遺跡よりも古いオホーツク文化期の墓が発見されているウト口神社山地点との共通点は、埋葬の際に頭位が西を向くことと被瓶が埋葬されていることです。

一方、崩落している竪穴住居跡からは住居の半分以上を覆う大小さまざまな石で構成された敷石が発見されました。一部、石が欠落していた所からはトビニタイ文化期(今から約900~1,000年前)の土器6個体ほどが出土していました。そのうちの一つには底部に穴が穿(うが)たれ、口縁部の一部がわざと壊さ

れている奇妙な土器がありました。また、その土器の周りにはクマなどの動物や魚の骨が集中していました。現時点ではこのような土器の出土例は他にないため想像の域を出ませんが、クマの骨があることと土器の底や口の一部を穿ったり壊したりしていることから儀礼に使われた場所ではないかと考えています。来年は下層の火災にあった住居本体核心部を調査する予定です。羅臼町の遺跡から出土した熊の頭の形をした水差しのようなお宝が眠っている可能性もあります。

(松田 功)



川上1遺跡発掘風景



川上1遺跡 支柱穴がない竪穴住居跡



チャシコツ岬上遺跡 把手(とって)付きのトビニタイ土器(底部穿孔)

発行 知床博物館協力会 2014.11.26

099-4113 北海道斜里郡斜里町本町49

斜里町立知床博物館内

TEL: 0152-23-1256 FAX: 0152-23-1257

NEW! <http://shiretoko-ms.sakura.ne.jp/>